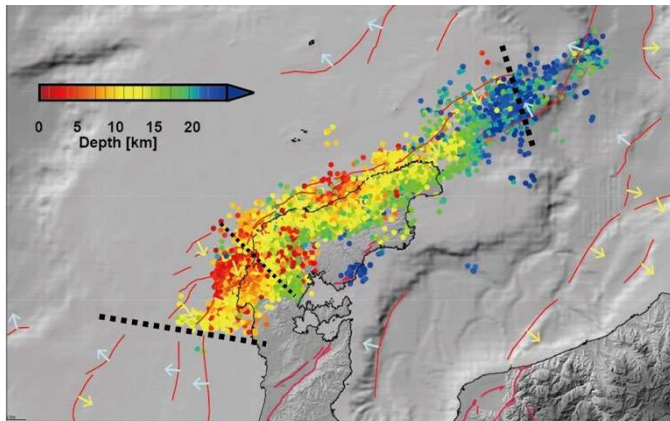


能登半島北部周辺海域の活断層と沿岸の隆起痕跡

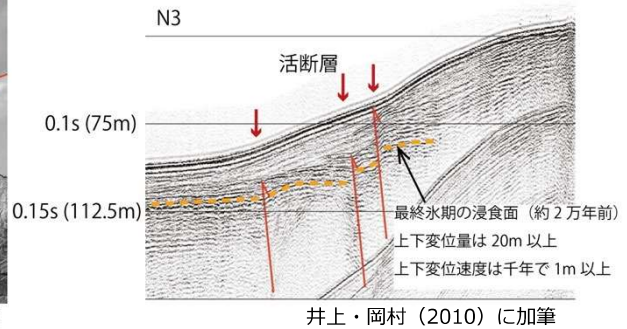
穴倉正展・岡村行信（産業技術総合研究所）

ポイント

- 能登半島北部周辺海域の活断層
 - 2024年能登半島地震は主に能登半島北岸沖の活断層の活動によって発生した可能性が高い。
 - 反射断面の解釈から、能登半島北西沖の逆断層の垂直変位速度が1m/1000年以上であると推定され、A級の活断層である可能性が高い。
- 能登半島北部沿岸の隆起痕跡
 - 2024年能登半島地震で隆起が認められた海岸には、少なくとも3段の完新世海成段丘が認められ、過去にも同様の隆起が生じていた可能性が高い。
 - 隆起痕跡から見て、活断層のセグメントごとに起こる隆起量1m未満、M7未満の地震と、セグメントが連動する隆起量1m以上、M7超の地震がある可能性が指摘される。



2024年1月1日～1月31日に発生した余震について、AIによる自動検知・自動検測に基づいて震源を求め、hypoDDにより再決定。作成者：内出崇彦・佐脇泰典



井上・岡村（2010）に加筆

図1 能登半島海域の活断層と2024年地震の余震分布（左）および反射断面の解釈（右）

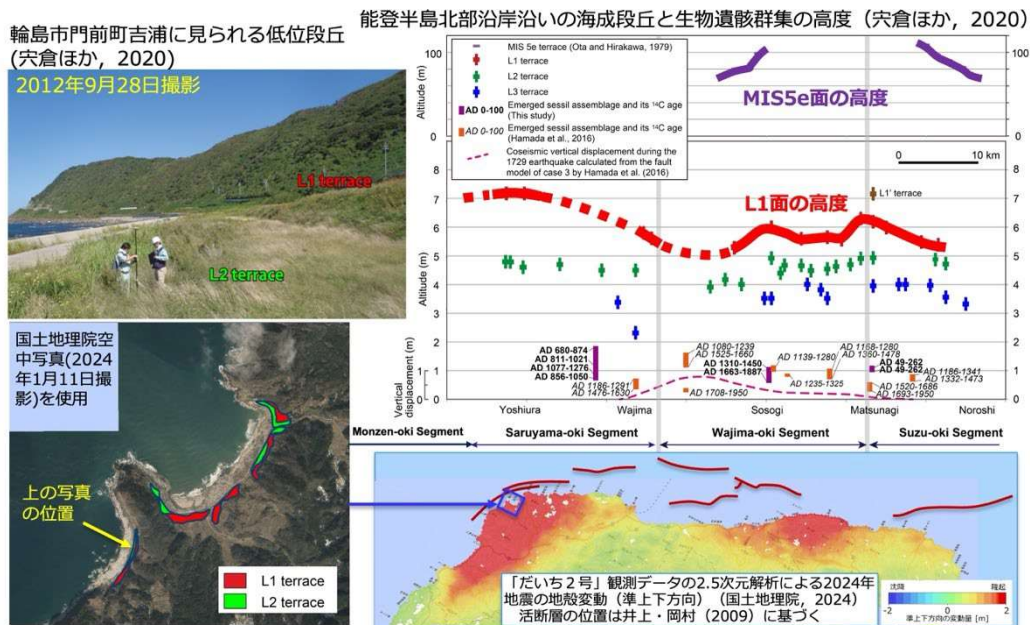


図2 能登半島北部沿岸の海成段丘と2024年地震の地殻上下変動